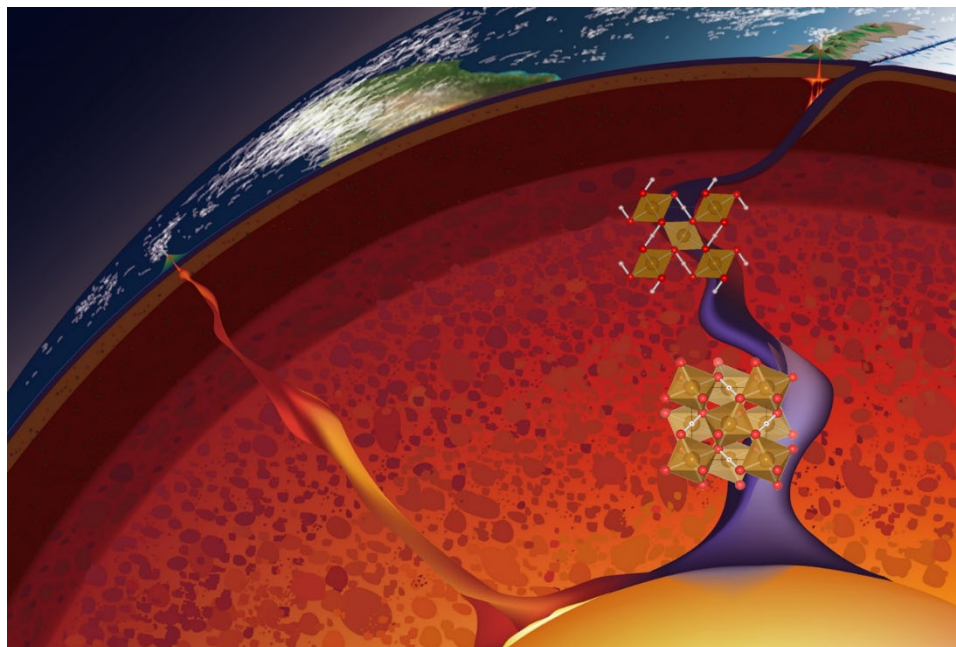


令和6年5月15日

愛媛大学

**GRCの土屋旬教授のエッセイが Nature Geoscience に掲載**

Nature 誌の姉妹誌である Nature Geoscience 誌では、編集者の依頼により地球科学分野で顕著な業績をあげている研究者に、その分野の最近の研究に関する随筆（Essay）を依頼しています。GRC（地球深部ダイナミクス研究センター）の土屋旬教授は第一原理計算に基づく地球内部での含水鉱物の挙動に関して世界をリードする研究成果をあげており、地球深部における含水鉱物の構造変化が、マントル物質の特性やそのダイナミックに重要な影響を与えるという、最近の自身の理論予測とそれを支持する実験結果について解説しています。



プレートの沈み込みに伴う含水鉱物の地球深部運搬の模式図。地球深部の高温高圧状態によって、結晶構造が変わりながら（相転移）核-マントル境界まで運ばれると予想されている。

エッセイタイトル：Dense hydrous minerals under pressure（高圧下での含水鉱物）

掲載誌：Nature Geoscience

リンク先：<https://www.nature.com/articles/s41561-024-01434-0>本件に関する問い合わせ先

愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 土屋 旬（教授）

電話：089-927-8152 メール：junt@ehime-u.ac.jp

